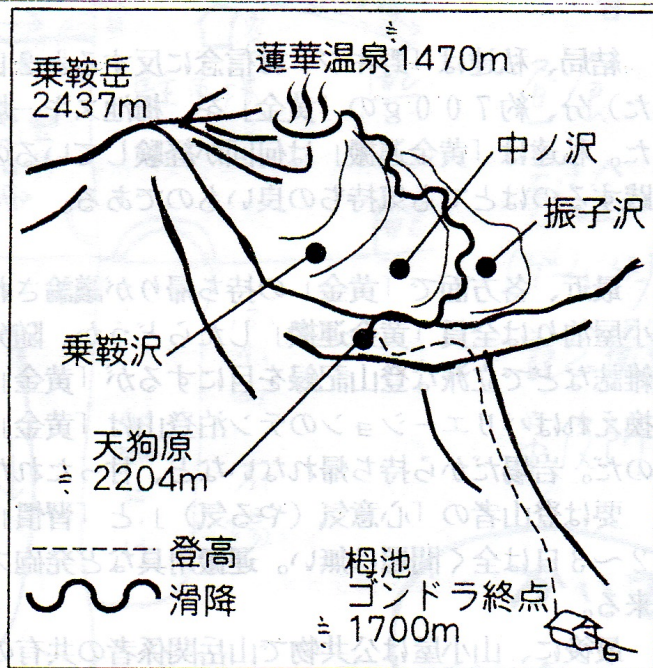


投 稿	北アルプス 朝日岳		報告者	渡辺 昭二
山 名	北アルプス 朝日岳		◎☆☆◎	
この山のセールスポイント		🔥 6つ。山ふかく、滑 登の旅。(地形図参照)		
コース及びタイム	4月13日(金) 天候(晴)	起床5:30～ゴンドラ駅8:35～ゴンドラ終点9:05～ 天狗原11:04～滑降開始11:50～蓮華温泉14:00～ テント場14:30		
登り標高差	≒ 1700m～2200m≒500m	体力度	1 2 ③ 4 5 6	
滑降標高差	≒ 2200m～1470m≒730m	技術度	1 2 ③ 4 5 6	
ザック重量	約18kg	展望度	1 2 3 4 5 ⑥	

参加者	CL	後藤隆徳 (54)	今度は空荷で振り子を滑りたい
	会計 食料	加藤秀子 (51)	荷物の重さと雪質が問題
	SL	長岡浩一 (41)	17Kgでも上手い人は上手い
		渡辺昭二 (39)	あったかいな 温泉みたい 仲間の気持。

第二日目
ゴンドラに揺られながらの白馬方面の展望は見事だ。天気が良いにも関わらず、気持は重い。朝氣がついたのだが三段式のポールのまん中が無く、1本での対応となったのだ。(後日確認すると中にはまり込んでいただけだった。)道具への不馴れさと、冷静さに欠けた心理状態を思うととても恥ずかしい。
慣れないスプリットボードでのシール登高の不安は大変大きいのだが、12年程前の夏に行った蓮華温泉そして朝日岳への憧れが勝りここまで来てしまった。あのときはオコジョとはちあわせ目があり、ハクサンコザクラに心慰められ、温泉に感動したのだった。
樹林帯を登り始めるとすぐに静けさに包まれる。皆は、はるか先。壺足なら目をつぶっても歩ける様な所が、シール登高では恐怖でふるえおののく。クトーの周辺には15センチ程の高さの雪がダンゴ状に付き、雪



4/12(木・雨) 下土狩13:00～樽池高原17:30 (体育館の屋根の下にテント泊)

面との接着力はしだいに増していき、最後には足も上がらなくなる。悪い夢が終わり休憩している皆に追い付くと、後藤さんが道しるべの竹をポールの長さ程に折ってくださる。ポールが両手にあるありがたさを痛感する。天狗原への登りなど、1本のポールではとても登れなかった。

天狗原は強い風に包まれ休憩していても体温を奪われる。乗鞍岳を登る人陰はなかなか進まない。まだ12時前なので乗鞍から滑るべく登ろうとするがあまりの強風に断念する。

滑り出しはうねったウインドクラストの雪面とザックの重さに翻弄され尻餅をつき、おしりが2つに破けそうになる。ここでもボードのセットに手間どり僕が遅れるので、皆がどのように滑ったのかは定かではない。

乗鞍を左に見ながら振り沢へ滑り込む。クラストしていたり柔らかかったり、あるいは緩斜面でボードをはずしたり大忙し。皆も楽しく格闘していた。

標高2000m位の台地状の場所で大休止。のどを潤す。ボードを外すと膝くらいまで沈み込む。乗鞍を左後方に振返ると美味しそうな急斜面が輝いていた。気温も上昇し、雪も腐ってきていた。

中ノ沢へ移る手前から壺足で喘ぎ、トラバース。小屋迄はほとんど修行の様な物。皆はスキーですーいすい。それでも小屋へ着いた時にはうれしさが込み上げてきた。お気に入りのボードとずっと一緒なのだから。

憧れの小屋へ入り、加藤さんが水場を聞くが小屋の方は素っ気無い態度。(水をいただけることは事前に電話で確認済。)だまって見ていると加藤さんが遠慮しながら3・4回同じ事を訪ねる。と、突然態度が変わり場所を教えてくれた。山深く入って突然下界に引き戻された様なこの対応には、言葉も出なかった。後藤さんは、お金は払わせていただくからトイレを使わせて欲しいと頼んだにも関わらず断われ、本当にがっかりしていた。いや、怒っていた。今思えば『ふざけるな!』と皆で言うべきだったのかもしれない。

沈んだ気持で、小屋で購入したビールと日本酒をザックに詰め込みテント場へ。後藤さんがダッシュし、木造の小さい小屋の前へ。そこは地熱で雪が解けていた。テントを張るためスコップで雪掻き。3m程の雪壁の中にテントを張る。マメな加藤さんは階段を器用に作った。風も無く、アスファルトの地面は乾いて最高の場所だった。

加藤さんと長岡さんが水を汲んで戻ってきて、いよいよ夕食の支度。後藤さんと長岡さんと僕がアルコール燃料を大量に投入している間、加藤さんの作るデミグラソースの香りがテントの中に満たされホッとする。まるで家にいるみたいだ。ソースの中には大きいハンバーグとお野菜がいっぱい。出発前夜12時まで支度にかかったそう。あまりの美味しさに長岡さんが作り方を尋ねると、「今度つくってあげる。」と、なんとあたたかい方なのだろう。人のための苦労を惜しまないその心意気にぼくらはただただ感謝。おかげで明日への力がみなぎるのだった。

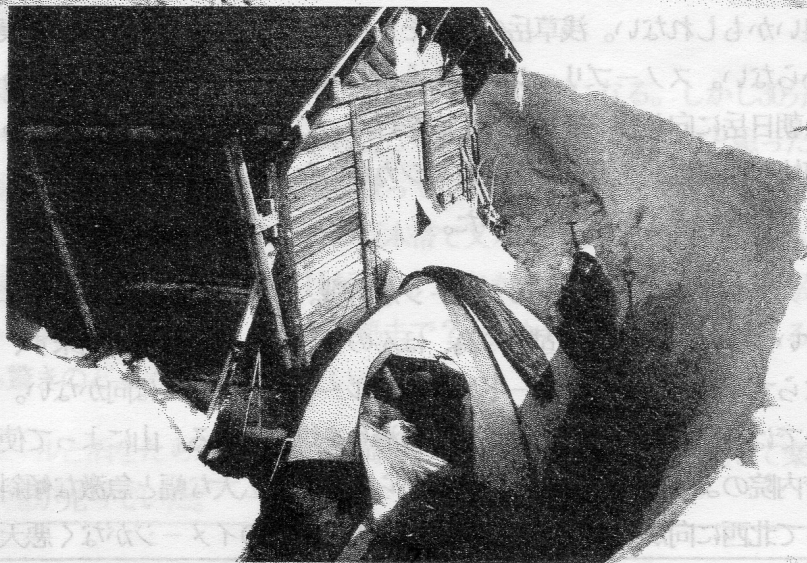
就寝時、軽量化のため小さいザックで来たかった僕はマットを持って来なかった。長岡さんが心配してフライシートをザックから出してくれるまで眠ることに。また、風上の端に寝た長岡さんはテントに押されて余り眠れなかったそう。合掌!

あらゆる面で皆に助けられて今日という日が終わった。



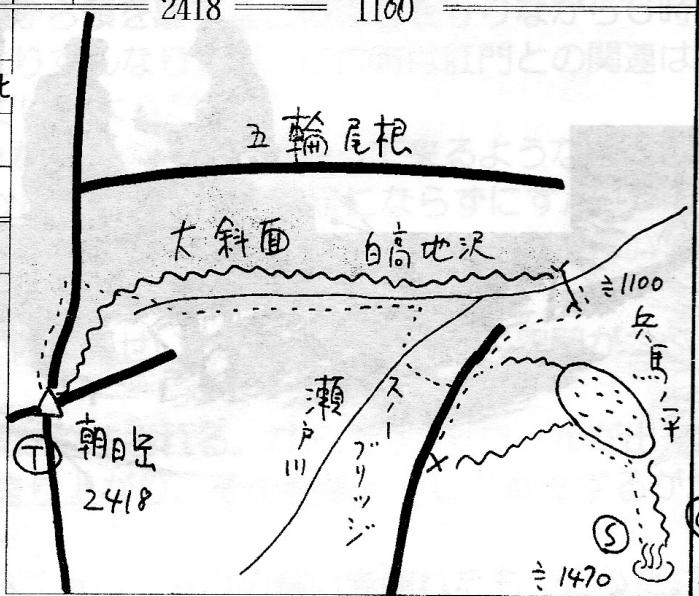


(上) 天狗ヶ原へ登る
 (中) 振子沢上部コイチの
 滑り
 (下) 同じテコの滑り



(上) 振子沢中部にて
(中) ショージの滑り
(下) 私達のテント

山名	朝日岳 (2418m)		報告者	後藤 隆徳	
この山のポイント	誰も行かないロングルートと「夢の大斜面」				
4月14日(土)コース及びタイム	起床4:00/5:30 ~ 平馬の平 6:00 ~ 瀬戸川ノブリッジ 6:35 ~ 白高地沢7:40 ~ 朝日岳12:20 ~ 瀬戸川14:40 (30分ロス) ~ B.C 17:20				
天候	晴のち曇のち雪		標高差	白高地沢	~ 朝日岳 = 1218m
体力度	1・2・3・4・⑤・6			△ 瀬戸川	~ 蓮華温泉 = 370m
技術度	1・2・3・4・⑤・6			蓮華温泉	瀬戸川 = 300m
展望度	1・2・3・4・5・⑥			▼ 朝日岳	瀬戸川鉄橋 = 1318m
後藤隆徳	54	日本にはまだこんな凄い山がある			
長岡浩一	41	遠いアホ 大きいアホ 美しいアホ			
渡辺昭二	39	ギヤガ地獄でイヤ~			
加藤秀子	52	一人未登頂でカバチタレ			
二日目					
<p>昨日一日吹きまくっていた強風も、さすがに夜半静かになった。しかし、2m近い雪壁に囲まれたテン場だったが全く関係なく、風上に寝た長岡は充分休めなかったようだ。天気は良く4:30に明るくなった。</p> <p>まだ誰も起きていない蓮華温泉前を通り、ブナの巨木達をぬって平馬の平に向かう。大きな大きなブナに嬉しくなってしまう。朝の冷えて滑りは極めて快適。平馬の平から歩きで滝見尾根を越えて瀬戸川に下降する。物凄い急斜面でアイゼン・ピッケルを使用。瀬戸川のスノーブリッジを3回渡り、対岸の尾根を越えてようやく白高地沢に着いた。</p> <p>瀬戸川の下降は、かなりヤバいルートでピッケル・アイゼンは必携である。これでは南回りの鉄橋コースの方が良いかもしれない。浅草岳の時もそうだったが、山スキールート図集だけでは正確な状況が分からない。スノーブリッジも、もう少し時期が遅いと渡れないだろう。シールを付けていよいよ朝日岳に向かう。概ね沢の右岸に行く。ここもブナが美しい所だった。氷河のような大きく爽快な白高地沢を登る。途中カモシカがいた。加トーが『ヤッホー』とお声掛けすると興味深そうにジッとこちらを見ていた。</p> <p>急な斜面のトラバースでスプリットボードのショージが苦戦。ボードは幅が広い分、エッジングが難しく利きが甘いようだ。また両足固定の為、ほんのチョットした登りが出来ず、いちいち脱足しなければならず手間が掛かる。ボードは多様なルートのツアーには向かない。しかし1本上り、1本下りでは重荷も何のその。サイコーの滑りを堪能できる。山によって使い分ける事だ。ひと登りで内院のような所に着いた。此处からルートは広大な幅と急激な傾斜を増して、五輪尾根にそって北西に向かっていく。あまりの広大さに沢のイメージがなく悪天候時</p>					



④ 井ノ池 鉄橋

今回の反省
① 無線は全損持た方がよい
② スプリット・ホールド歩きの研究
③ 体調不良時に朝飯をどう対応するか

には間違えそう。加トーが不調だった。珍しい事もある。3月、Hと乗鞍へ行った以来だ。とにかくゆっくり来てもらう。北のコルに上り稜線に出ると風が一段と強まった。いつしか空は鉛色になっていた。ガチガチのアイスバーンを斜登行。ショージのボードが全く登れず危険なのでアイゼンに切り換えさせる。頂上直下50mで私もアイゼンにかえた。スキーで登っても下に加トーがいるのでスキーで下れないからだ。

頂上からの滑降は長岡にまかせた。ショージが来たので一緒に行く。長岡も直下10mでアイゼン歩行。待望の頂上は広い広い雪原だった。立派な看板と標柱があった。再び晴れて360度の展望。黒部川の向こうに剣が灘していた。3人で柳ちゃんの黙禱。私は久しぶりの雪の剣を仰ぎ思わず涙してしまった。ショージと加トーが見える所まで下り、滑降すると伝える。加トーは這い松の中で待機していた。長岡は頂上からバリバリのアイスバーンをこなし、2250mの我々の所に来た。さてこれで4人揃った。

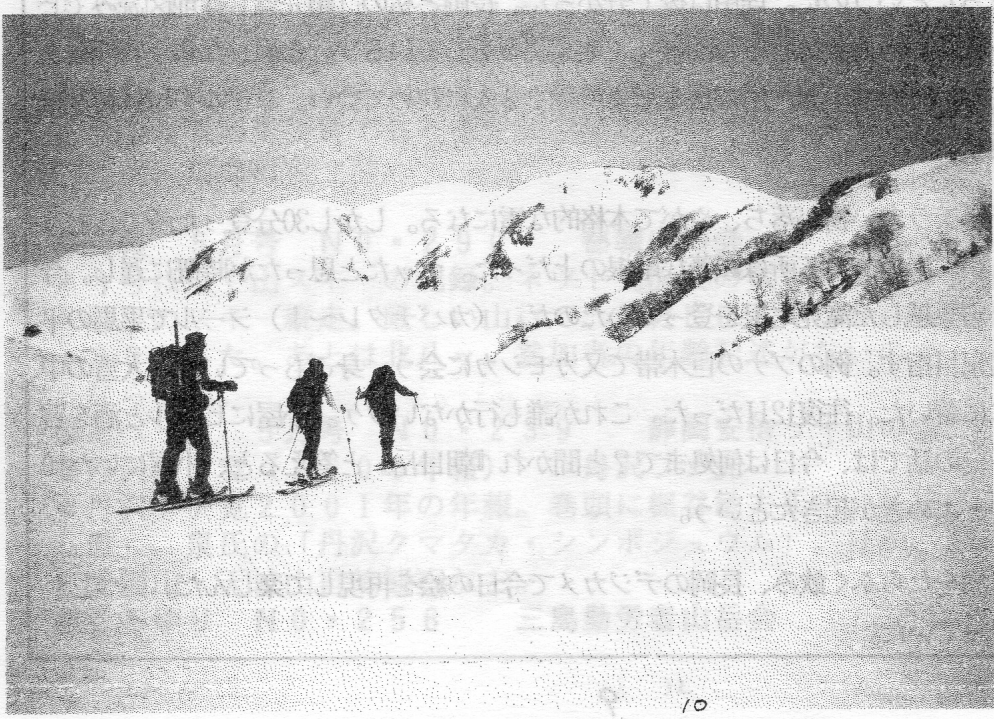
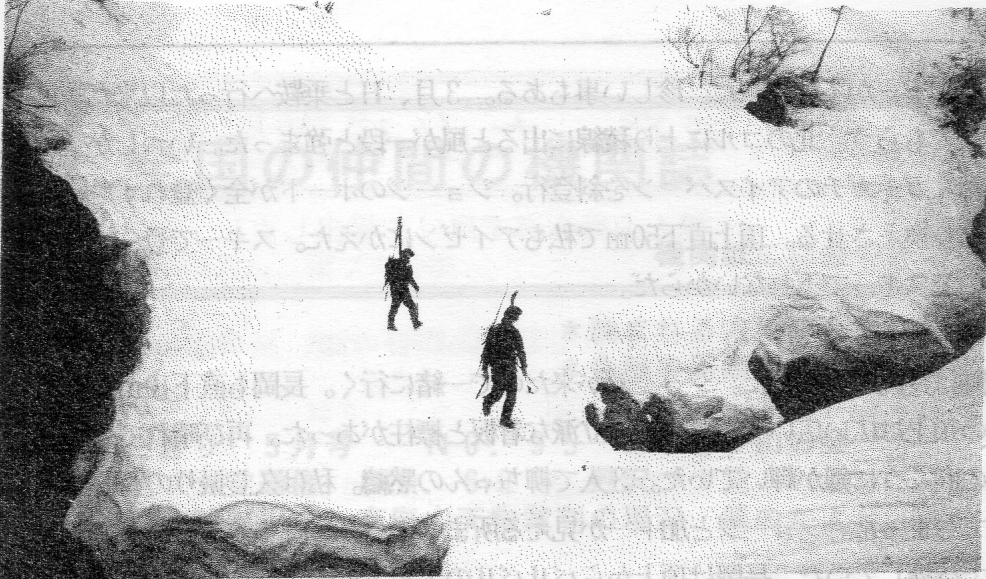
此処からはいよいよ「岳滑降」だア〜。まずショージが先陣をきってナダレ込む。次に長岡。加トーはサイドから攻め込む。そしてシンガリは私だが、旧雪は意外に硬く不快。右に横断して新雪帯に入ると快適、快適。カールの底まで一気に滑り込んだ。皆の顔が喜びでフニャフニャに歪んでいる。何という至福。ここまでやってきた甲斐があった。しかし本当に良かったのは、ここから内院までの急傾斜だった。内院で1本と思ったが風が強いので、一気に今朝カモシカを見た所まで下り、今付けたシュプールを眺めながらビールでカンパ〜イ。火照った身体にサイコーのビールだった。

” シュプールを 眺めいただく ビールかな ”

再び瀬戸川を目指す。帰路は鉄橋経由だ。それにしても、往復とも誰一人会わない。蓮華温泉に60名程泊まったというのに。理由は後で分かった。長岡と私の「超完璧」な地図読みでピタピタピタシ瀬戸川へ滑り込む。今回は良い地図読みをしているゾ。と思ったら1時間後とんでもない所を歩いていた！瀬戸川で日本海まで行く2人に初めて会い、シールを付け再び平馬の平に登り返す。

この頃からチラチラ白い物が落ち、やがて本格的な雪になる。しかし30分登った所で、どうも地形がおかしい。歩いている所は顕著な尾根の上だった。ヤッタと思ったが時既に遅し。今朝、平馬の平から乗越した滝見尾根を登っていたのだ。(カバチタレ〜!) シールで平馬の平に滑り、再び温泉目指す。例のブナの巨木帯で又カモシカに会う。身ごもっていた。大雪の中、30分遅れでBCに着いた。往復12Hだった。これが誰も行かないワケ。小屋にビールと酒を買いに行った加トーの話では、今日は何処まで?と聞かれ『朝日岳』と答えると、小屋にいた10数人から驚きのどよめきが起きたという。

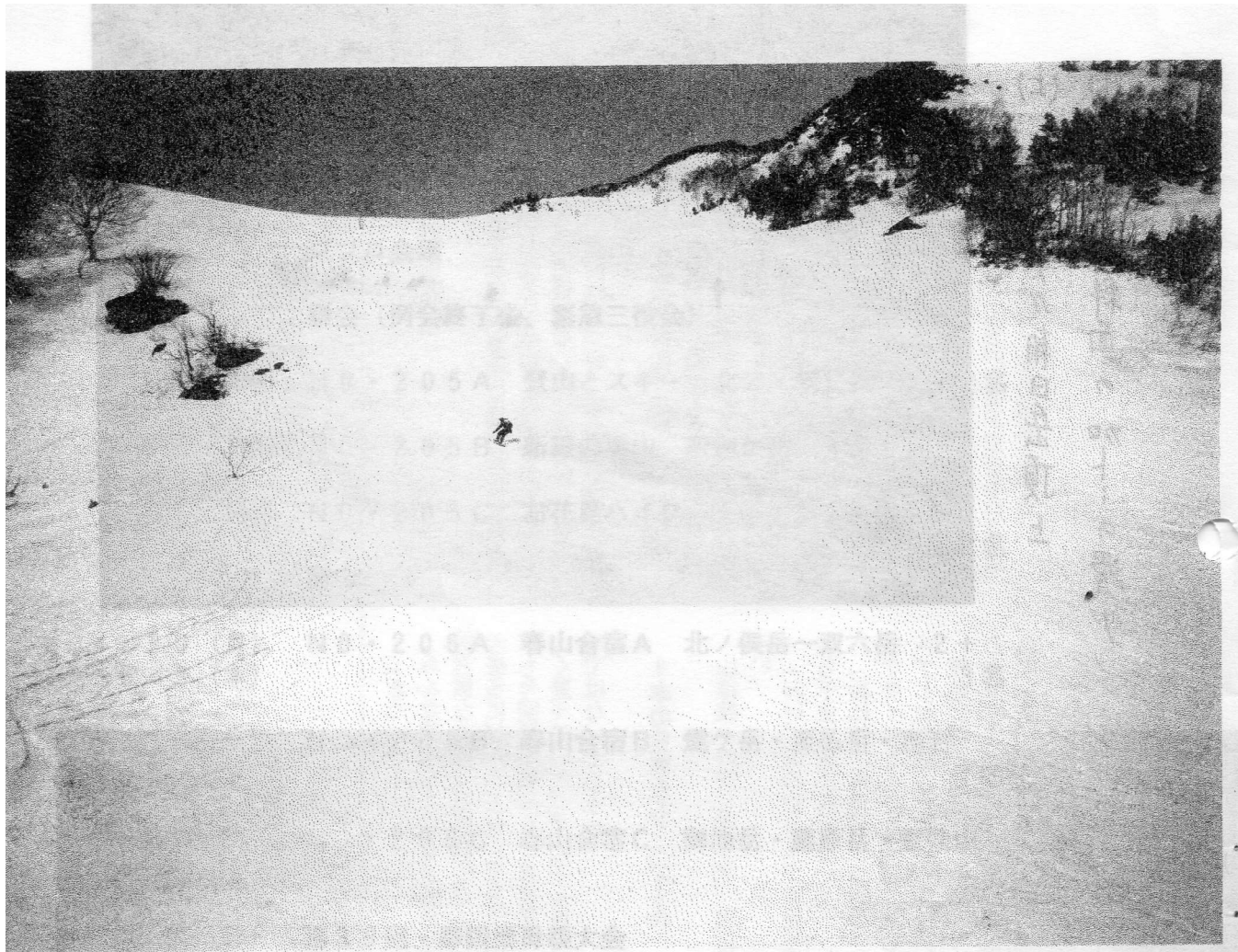
夜はビールと酒をたらふく飲み、長岡のデジカメで今日の絵を再現して楽しんだ。いつしか雪は止み星が光っていた。



(上) 瀬戸川のスノーブリッジ
 を渡る
 (中) 白高地
 (下) 沢をゆく

(上) 右の奥が朝日岳頂上
(下) 夢の大斜面の加ト一の滑り





雪の斜面



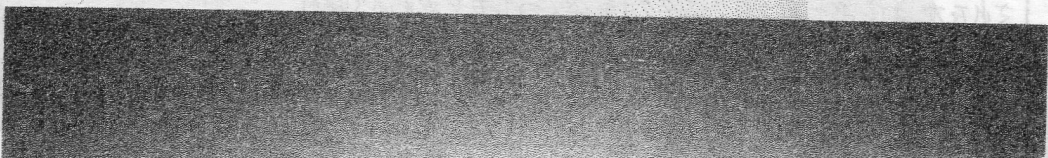
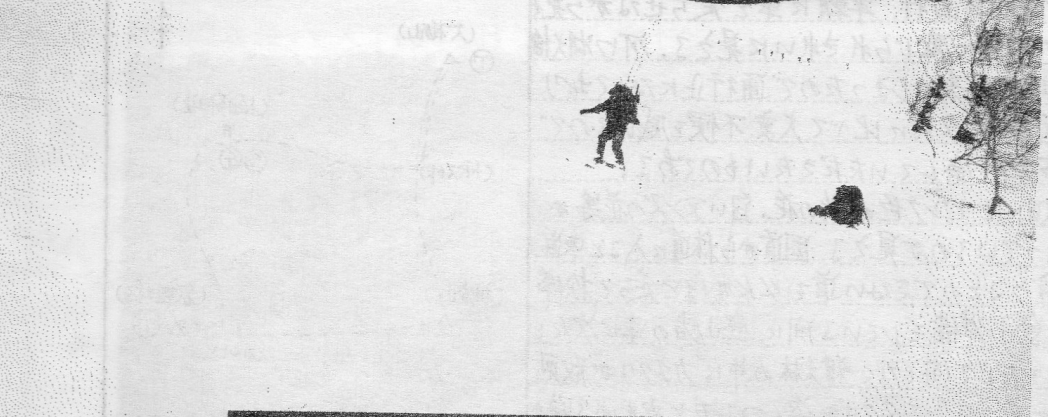
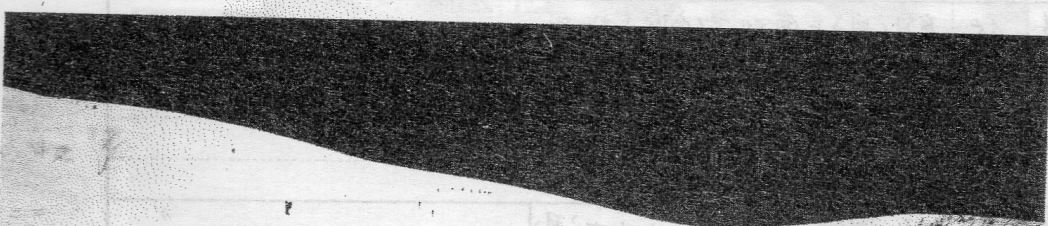
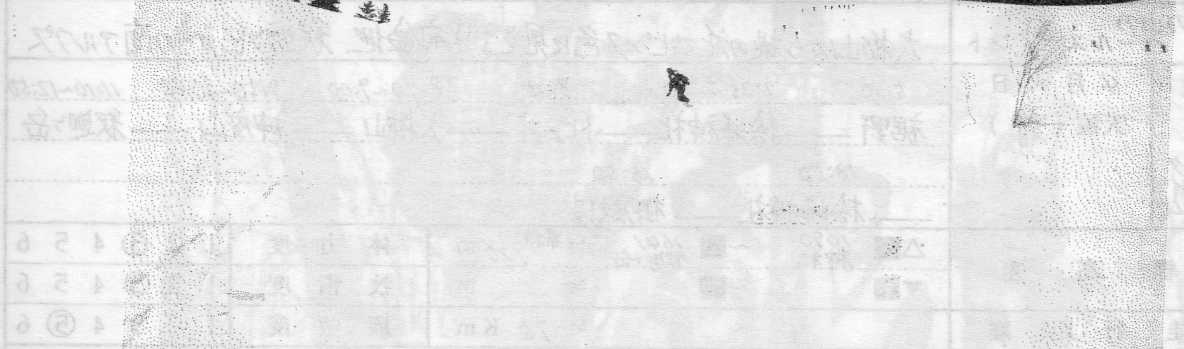
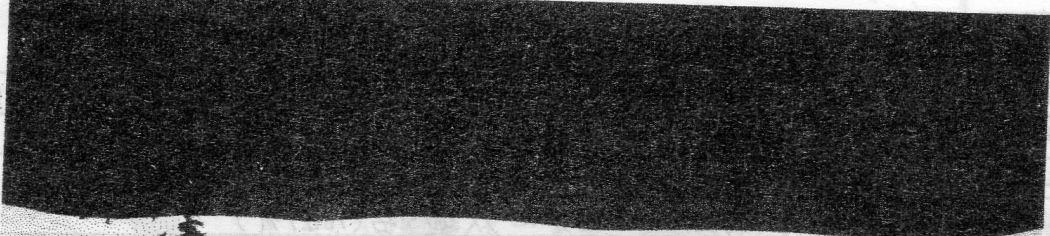
(上) 「夢の大斜面」シリーズの滑り
 (下) 全員そろってポーズ

氷河のような
白高地沢



70
すも車道に度一、し餅餅さう一子小本エ、グスでマエにたのゴ出にいで。のイ子車林の
るを精製、し、し既見はき文美の中刻人す州甲中金、し依にこの張の頂十。と強丁に飲

悪雨日
(日曜)



悪雨の梅池を滑る
上からシヨージ、コイチ、マフ